

釣れ釣れなるままに

1992年思い出の釣行記 PART. 7



アブラコ53.2

鹿島釣狂

☆釣行日 平成4年12月29日30日

☆入釣場所 春立交番前→春立入口

☆潮 29日干潮 12:15 77cm

満潮 17:38 126cm

30日干潮 00:21 33cm

満潮 07:13 123cm

干潮 13:00 74cm

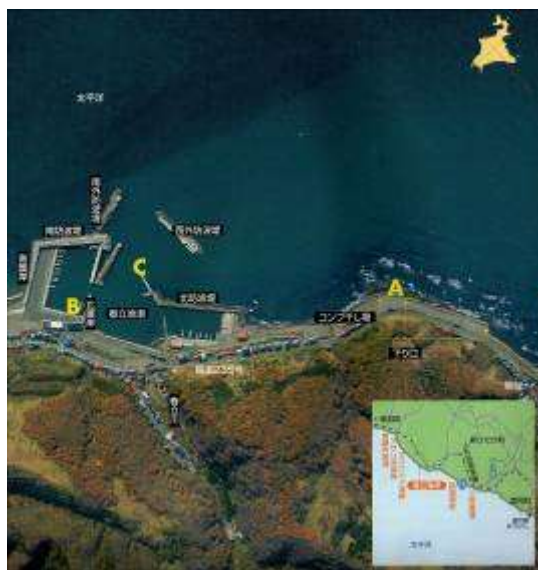
☆天候 波穏やか 風なし

☆釣果 アブラコ 532 mm

カンカイ 430 mm 21

カジカ 250 mm

冬季長期休業に入ったが職員団体の仕事は休業にはならない。事務所に詰めていると、正月三ヶ日が話題になり、釣りに行こうということになった。磯尾支会長、渋谷教文部長と海岸線の地図を見ながら案を練る。磯尾氏が静内春立のカンカイはどうだと提案した。春立は釣遊会第7回大会に向けて下見をして臨んだ所である。大会ではあまり奮わなかったが下見ではカジカの大釣りをしたのだ。すぐに同意して、29日、30日と日程を立てて準備に入った。



29日9:30 渋谷女史を乗せた磯尾氏の車が我が家に到着し、荷物を積み替えてすぐに出発した。前々日より準備は万端整えてある。カナダ屋釣具店でイソメを仕入れて一路春立に向かった。途中、静内漁港、春立漁港を視察し、少し戻って春立入口を入念に観察してから交番裏に入る。

14:00 渋谷女史は釣りが全くの初心者である。一応、私が担当し、簡単な胴付き仕掛けにイソメを付けた25号竿を1本与えた。まず、振り込みの基本を教え、次に、私が手本を見せて、マネをするよう促す。彼女は大変筋がいいのか第1投目から30mほど飛んだ。そして、竿先を見つめているようにと言っている間に、その竿先にコツコツとアタリが出た。私が講釈するまでもなく、彼女は竿を持ちリールを巻き始めた。なんと、生まれて初めての1投にハゴトコ第1号を釣り上げてしまったのだ。彼女はポカンとしていたが、私も、磯尾氏も鳴りやまない拍手を贈ることになった。それからの彼女の興奮ぶりはすごかった。初めての第1投がスムーズに飛んだこと、アタリも鮮明に見えたこと、魚の動きが道糸を伝わってきたこと、リールもちゃんと巻けたこと、そして大きな大きな魚を釣り上げたこと……。その度に私も磯尾氏も何度も拍手を贈ることとなった。

さて、彼女が釣った魚をハリからはずすことになるわけだが……。賢明な皆さん方なら想像がつくことだろう。結局、その後は私が魚をはずし、エサを付けて先程の繰り返しとなるわけである。しかし、同じことは起きない。アタリは出るのだが1投、1投が根掛かりして、仕掛けを取り替えたりしている間に飽きてしまったようである。私の竿にも一度大きなアタリがあるものの根掛かりして出てこない。この場合は諦め移動することになる。

交番裏を流れるチョロ川の右の砂地の舟揚場で竿を出す。根掛かりもないがアタリもない。夕闇が迫ってきたので、早い夕食にする。コンロに炭火をおこしてジンギスカンを肴に酒を飲む。今夜はここで夜を明かすことにする。

18:00 釣り場に戻り、竿を上げるとチビカンカイが3匹釣れている。その後パタパタとカンカイが釣れる。渋谷氏がやってきた時に丁度よいアタリが出たので竿を任せる。竿を股に挟んで腰を曲げ、「重い、重い」とやっとのことでリールを巻いていたので、根掛かりでもしたかと思ったが、少しずつ寄ってきているようだ。そして、波打ち際に見事なおオマイがバタバタと打ち上がった。測ってみると43cmもある。釣り会ではこのオオマイとハゴトコで入賞できるかもしれないよと話してやる。その後、ポツラポツラとカンカイが来たが夜も遅くなったので(00:00)車に入ってウイスキーを飲みながら歓談する。そのうちに3人ともぐっすりと寝入ってしまった。渋谷女史の高軒がいい子守歌になったようだ。

6:20 ウダウダとしながらも3人とも起き出す。釣り道具や晩餐の後片付けをして、下見していた春立入口(A)に行く。釣り大会の帰りのバスで仲間から紹介されていたので、以前から下りてみたかった所である。磯尾氏もその磯模様が気に入ったようだ。磯尾氏は平盤の左先端に、私はその右に入る。カジカ25cmが来たきりアタリが出ないので少し右に寄った舟揚場の前をゴロとバクダンで攻める。昆布根の際に投げていた中投の竿にコクンコクンとアタリがある。そしてすぐにグイッ、グイッという引きに変わる。手に竿を持ちグッ、グッの後のグウィーンの時にはぼっちり合わせが決まる。大物だ！右に左にと潮を掻き分ける。海底へも突き刺さる。カケアガリから出て来たのは大きなアブラコである。そして、平盤の上20cmぐらいの水深をさざ波を立てて左右に走る。慎重に岩盤の上に乗せた。思わず万歳とガッツポーズが出てしまう。すぐにスケールを当てると50cmをはるかに超えている。55cm程か。ヤッター、ヤッター。初の50cmオーバーだ。12月の下旬のこの時期に思いもかけない獲物を手にすることができた。

実はこのアブラコを手にする前には伏線がある。アタリがなく暇なために磯尾氏のところへ行った帰りに磯際で大きなツブを発見したのだ。そのツブを岩から剥がして殻を割り、ウロごとハリに付けたのだ。それが功を奏することになったのだ。

本日は本当に天気もよいし気分も上々だ。岩見沢に戻る途中で文房具店(南光堂)へ寄り、和紙と墨汁を買う。我が釣り人生唯一の50cmオーバーを記念して魚拓にしてみるとなかなかの出来映えとなった。現在は部屋の押し入れに仕舞ったまま日の目を見ることはないが、凛々とした威厳を保ち続けていることだろう。





何度撮り直しても、画面からはみ出してしまう。



「アブラコの滝のぼりだ!」「すごい大きいね。どうやって食べるの?」